

【1】研究テーマ・目的

“「自分を見つめる」ことのできる鑑賞授業について”というテーマのもと、生徒が作品鑑賞を通して自己を振り返ることができる「柔軟な適応力」「自分と向き合う力」を育むことをねらいとしました。

学校での授業と美術館での作品鑑賞を融合させて一つのプログラムを連携して作り上げました。

【2】プログラムの概要

① 学校での創作活動（1年生の1学期～）

単元名：「桃陵中の百鬼夜行」日用品やもののモチーフとした学校に潜む妖怪を、紙

② 学校の授業にゲストティーチャー

美術館の方が学校で授業をされました。鑑賞をテーマに見方、感じ方も含め興味深い内容でした。

③ 美術館での鑑賞学習

「自分の作品と美術館の作品をどう組み合わせるのか」を考えながらの鑑賞です。スケッチも行いました。

④ 成果の発表・振り返り

作品鑑賞後に館内で行い、後日学校でじっくりと振り返りができました。それぞれの思いが交流出来ました。



【3】特徴と工夫

- ・ 創作→鑑賞→振り返りまでを一つの流れで体験できる“往復型プログラム”
- ・ 学芸員・教員・生徒が三位一体で取り組む協働型授業
- ・ 生徒が本物に触れ「見る・考える・伝える」力を多角的に育む設計

【4】成果

- ・ 参加生徒の声：「美術館で迫力ある作品が近くで見られてうれしい」！「美術館の見方が変わった」
- ・ 教員の声：「美術館では普段の授業では見られない集中力を持って取り組んでいた生徒の姿があった」
「鑑賞授業の可能性が広がりました」
- ・ 美術館スタッフの声：「生徒の自由で鋭い視点に刺激を受けた。今後も継続したい」